

北海道聖書学院 2024年度2学期(8/31~11/16) 聴講のための授業案内

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語文法③	高橋政宣師	1学期から学び始めています。聴講を希望される方は、来年度4月よりご参加ください。
	キリスト教史② (通年の科目)	川崎憲久師	2学期は、中世後期から宗教改革までを学び、イスラム、ヨーロッパの成立、十字軍、宗教改革等を通して見えてくる教会の課題について考察します。
	日本教会史 (2・3学期で10週)	川崎憲久師	幕末から戦後までの日本のプロテスタント教会の歴史を聖書的視点で見ることを通して、私たち現代日本の教会に見えてくる今日の課題を考察します。キリシタン時代については「キリスト教史③」で学びますので、本講義では扱いません。
	教会音楽Ⅱ	赤坂恵美師	聖書から教えらるる「賛美の本質」を前提とし、歴史上の礼拝音楽を追い、会衆賛美歌では「ことば」に、聖歌隊の合唱曲では「音楽」に着目しつつ観察することを通して本質との'距離'の評価を試みます。現代の私たちが礼拝音楽について考える指標を持つことを願っています。
水曜日	教会音楽Ⅰ	遠藤 稔師	教会で使われる音楽、そして歌の内容について聖書を通して神さまは私たちに多くのことを教えてくださっています。聖書が教える教会音楽について、ひたすら聖書から学び、分かち合うクラスです。初めての方でも参加できます。実際に歌いながら学びます。
	旧約聖書通論② (通年の科目)	中西健彦師	1学期に引き続き、旧約の歴史の後半部(王朝期・捕囚期・第二神殿期)を学びます。また、その後には旧約の各書(五書・歴史書)を概観的に捉え、旧約のさらなる理解を目指します。
	詩篇	松元 潤師	「詩篇は詩であるということ、しかも、歌うことを意図した詩です。教理論でもなく、説教ですらないということである」というC・S・ルイスのことば通り、類型で読むのではなく、聖書本文が語ることに聴きます。
木曜日	啓示・聖書論	松元ハンナ師	全15回の学びです。1学期にすでに5回の学びを終えていますので、聴講したい方は来年度ご参加ください。
	聖霊論	水草修治師	キリストの救いを適用する聖霊とそのみわざについて学びます。聖霊は誰か、聖霊のみわざの総括、救いの順序と予定、義認、聖化、子とすること、聖霊によるバプテスマ、御霊に満たされること、超自然的賜物の理解といった内容です。
	神論 (2学期10週/3学期5週)	吉永 沙織師	(全15回) 聖書から神がどのようなお方(神の属性、近さと遠さ、三位一体など)で、何をなさる、なさったお方(計画、創造、摂理など)かを学びます。教理的知識なしに霊的健全さを保つことはできませんが、単なる知識を身に付けるのではなく、神に仕え、神を喜ぶことを目指します。
金曜日	礼拝論	中川昭一師	「礼拝」は教会における中心であり永遠へと続くいのちの源泉です。礼拝の豊かさを求めた現代の多様性は同時に議論にもなります。本講は方法論ではなく聖書から礼拝を考えます。
	共観福音書	小澤和男師	共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)を読むとき、記事の寄せ集めという印象がつかまうかもしれません。この学びでは各福音書の構造を詳細に分析し、神がそれぞれの記者を通して、いかに深い配慮と計画をもって書かれたのかを明らかにしていきます。
	獄中書簡	野村啓祐師	特にエペソ人への手紙を読み、その背景や構成なども理解した上で、この書の使信を受け取ることを目指します。また、学んだ内容を他の人にお伝えしたり、教会で学びをしたりするための備えになればと願います。
	ヨハネ書簡	木村恵一師	御救いにより、私たちが豊かに与っている恵みと特権を、この書簡を通して味わって参りましょう。
土曜日	説教理論Ⅰ	菜花 和男師	説教理論の概要とその基礎を学びます。題目説教、聖句説教、講解説教の違いを理解し、それぞれの説教準備の手順を身につけます。
	使徒の働き	吉田麻希子師	使徒の働きと関連する新約書簡も照らし合わせながら、福音宣教の広がり、聖霊に満たされた使徒たちの信仰と働きを学びます。
	新約聖書通論② (通年の科目)	姜 明善師	新約聖書の各書巻の背景を理解し、その内容を把握するための学びです。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。

(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき、1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)

複数の科目を聴講し、1ヶ月の聴講料が20,000円以上になる場合は、20,000円を超過した分は免除となります。